販通 180303

TECHNOS

突撃！リスクマネージャー！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
3 月号

No.103 東京都同胞援護会昭島病院 医療安全管理者 古谷久重様 ・ 事務長 山川浩一様

【昭島病院／東京都昭島市】

【左･古谷様 ／ 右･山川様】

■病院の概要（抜粋）

昭和 27 年 11 月 11 日 万世病院開設（一般 79 床 結核 16 床）
昭和 32 年 9 月 1 日 病床数変更（一般 109 床 結核 41 床）
昭和 41 年 6 月 1 日 病床数変更（一般 124 床 結核 40 床）
昭和 44 年 6 月 21 日 病床数変更（一般 144 床 結核 21 床）
昭和 49 年 2 月 23 日 病床数変更（一般 199 床 結核 20 床）
昭和 52 年 3 月 1 日 結核病棟廃止･病床数変更（一般 219 床）
平成 12 年 4 月 1 日 病床数変更（一般 199 床）
平成 17 年 1 月 8 日 新病院完成
【病床数 199 床】

■病院基本理念

1．個人の尊厳を守り、患者様の知る権利を十分に尊重いたします。
2．患者様中心の医療と、信頼に基づいた医療を推進いたします。
3．地域の皆様と一緒に地域医療の推進に努めます。

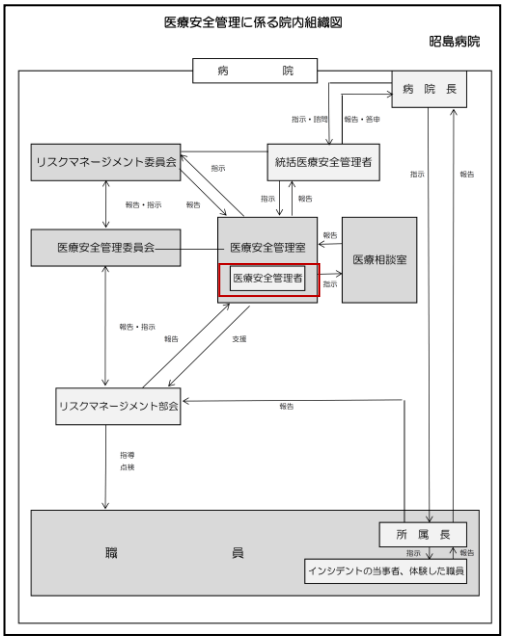
■病院基本方針

1．患者様の立場に立って医療サービスを考えます。
2．患者様のため安全で質の高い医療サービスを提供します。
3．十分な説明と情報提供と思いやりの心を大切にします。
4．透明で開かれた病院を目指します。
5．健全な病院経営を目指します。

1．組織体制について

医療安全に関する組織体制について貴院の特色を含めて教えて下さい。

医療安全管理室は病院長の直属の組織で、統括医療安全管理者は医師が務め、医療安全管理者は私（古谷）が任命されています。各部署や各委員会と連携して院内全体の医療安全意識を高めています。



【医療安全管理に係る院内組織図】

古谷様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えて下さい。

業務内容は以下の通りです。

①インシデント・アクシデント報告書及び転倒・転落報告書の集計・分析

②再発防止の検討と対策　③各委員会の企画・開催　④ニュースレター配信

⑤職員への研修活動　⑥相談窓口との連携　⑦ICT と合同の院内ラウンド

２．転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生件数の推移やその原因や対策について教えて下さい。

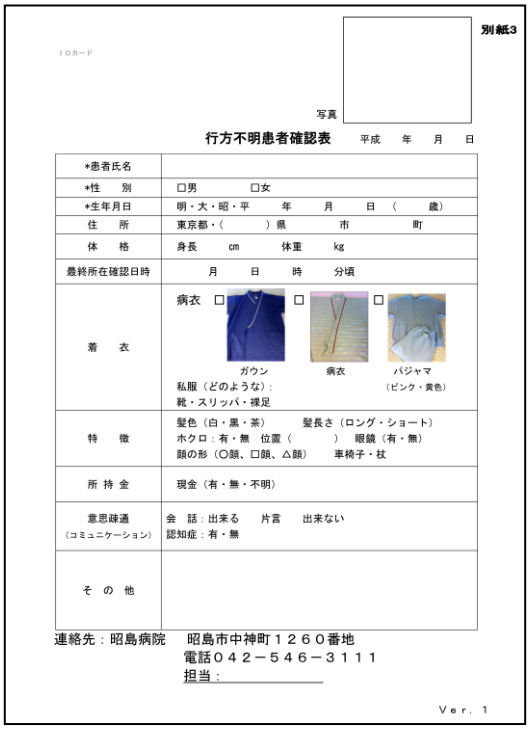
インシデント・アクシデント総数は年間約 300～400 件前後で推移しています。転倒・転落事故はインシデント報告全体の 30%程度で件数に大きな増減はありませんが、入院患者数が増えている現状を考えると、現場スタッフは日々転倒・転落の危険と向き合っているのが現状です。

入院時の対策で注意喚起のパンフレットを患者さん・ご家族に渡して入院生活の注意点を確認してもらうようにしていますし、スタッフ側のインシデント報告では「転倒・転落」だけ、その他報告とは分けて専用の書式に記入して報告するようにしています。現在はその情報の収集や対策がスピーディーに確実に行えるように、「転倒・転落対策プロジェクトチーム」を立ち上げる検討をしています。リハビリスタッフと共に情報の共有・対策の検討・勉強会開催などを行って事故の軽減に取り組みます。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えて下さい。

同グループの施設からの入院患者さんも多いため、生活をしていた施設に帰ろうとする患者さんの離院の問題が発生しているので離院マニュアルの見直しを行い、新たに「行方不明者確認表」を作成しました。捜索時に患者さんのことをあまり知らない事務職員等が探す可能性があるため、ご家族の理解を得て患者さんの特徴や写真を付けて作成しています。

また、夜間・休日の職員の少ない時に発生する可能性が高いため、職員が落ち着いて行動出来るように「離院対応チェックリスト」を作成しました。



ＩＤカード　別紙3

写真

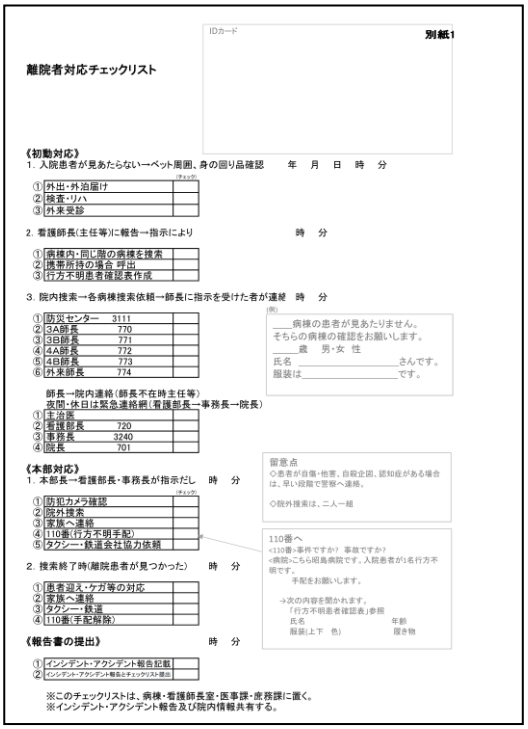
行方不明患者確認表　平成　年　月　日

*患者氏名	
*性　別	□男　□女
*生年月日	明・大・昭・平　年　月　日（　歳）
住　所	東京都・（　）県　市　町
体　格	身長　cm　体重　kg
最終所在確認日時	月　日　時　分頃
着　衣	病衣 □ □ □ ガウン　病衣　パジャマ（ピンク・黄色） 私服（どのような）： 靴・スリッパ・裸足
特　徴	髪色（白・黒・茶）　髪長さ（ロング・ショート） ホクロ：有・無　位置（　）　眼鏡（有・無） 顔の形（○顔、□顔、△顔）　車椅子・杖
所持金	現金（有・無・不明）
意思疎通（コミュニケーション）	会　話：出来る　片言　出来ない 認知症：有・無
その他	

連絡先：昭島病院　昭島市中神町１２６０番地
電話０４２－５４６－３１１１
担当：

Ver. 1

【行方不明患者確認表】



IDカード　別紙1

離院者対応チェックリスト

《初動対応》

1. 入院患者が見あたらない→ベット周囲、身の回り品確認　年　月　日　時　分

		チェック
①	外出・外泊届け	
②	検査・リハ	
③	外来受診	

2. 看護師長(主任等)に報告→指示により　時　分

①	病棟内・同じ階の病棟を捜索	
②	携帯所持の場合 呼出	
③	行方不明患者確認表作成	

3. 院内捜索→各病棟捜索依頼→師長に指示を受けた者が連絡　時　分

①	防災センター	3111	
②	3A師長	770	
③	3B師長	771	
④	4A師長	772	
⑤	4B師長	773	
⑥	外来師長	774	

例）
＿＿病棟の患者が見あたりません。
そちらの病棟の確認をお願いします。
＿＿歳　男・女　性
氏名＿＿＿＿＿＿＿＿さんです。
服装は＿＿＿＿＿＿＿＿です。

師長→院内連絡（師長不在時主任等）
夜間・休日は緊急連絡網（看護部長→事務長→院長）

①	主治医		
②	看護部長	720	
③	事務長	3240	
④	院長	701	

《本部対応》

1. 本部長→看護部長・事務長が指示だし　時　分

		チェック
①	防犯カメラ確認	
②	院外捜索	
③	家族へ連絡	
④	110番(行方不明手配)	
⑤	タクシー・鉄道会社協力依頼	

留意点
◇患者が自傷・他害、自殺企図、認知症がある場合は、早い段階で警察へ連絡。
◇院外捜索は、二人一組

110番へ
<110番>事件ですか？ 事故ですか？
<病院>こちら昭島病院です。入院患者が1名行方不明です。
手配をお願いします。
→次の内容を聞かれます。
「行方不明患者確認表」参照
氏名　年齢
服装(上下　色)　履き物

2. 捜索終了時(離院患者が見つかった)　時　分

①	患者迎え・ケガ等の対応	
②	家族へ連絡	
③	タクシー・鉄道	
④	110番(手配解除)	

《報告書の提出》　時　分

①	インシデント・アクシデント報告記載	
②	インシデント・アクシデント報告とチェックリスト提出	

※このチェックリストは、病棟・看護師長室・医事課・庶務課に置く。
※インシデント・アクシデント報告及び院内情報共有する。

【離院者対応チェックリスト】

3．医療安全に関する研修および他院との連携について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や内容について教えて下さい。

新人研修は４月入職者と前年度の中途入職者を対象として新年度に１回開催しています。医療安全の基本だけでなくチーム医療の実践とコミュニケーション力向上を目的とした「紙の鎖ゲーム」などを行っています。

全体研修は年２回開催しています。今年は「コミュニケーションエラー」を中心に行い、災害訓練用の勉強会では「訓練内容とトリアージ」、患者役のメンバーに「訓練内容とムラージュ(災害医療訓練用ダミー)・演技指導」を行う予定です。

院内で要請があった場合には、個別の研修会を看護部やコメディカル・事務に向けた研修会を開催しています。

また、年に１度は本部が中心となってグループ全施設と共に法人合同研修会も開催しています。

地域病院やその他、医療安全に関する連携があれば内容を教えて下さい。

具体的なことはこれからになりますが、同エリアの「感染対策地域連携病院」と ICT の取り組みで、医療安全の連携を検討している段階です。

地域の活動とは別に「Team ASAKURA」という医療安全チームに所属しています。「Team ASAKURA」の活動拠点は九州にあり、距離の面から出席することはなかなかできませんが、昭島支部の準メンバーとして籍を置かせて頂いています。

※「Team ASAKURA」についてはテクノス通信でご紹介しています：

http://www.technosjapan.jp/correspond/charge/pdf/100i.pdf

日頃から「Team ASAKURA」メンバーの方とは、医療安全に関して様々なことをメールや電話で相談させていただいています。年に何回かは学会・勉強会などで直接会って情報交流をしています。前回は仙台の学会で情報交換をさせていただき、非常に勉強になり院内の取り組みに繋げています。

4．物的対策について

対策用具の選択基準や課題があれば教えて下さい。

床に設置するセンサーマットを使用しています。まだまだ導入数は不足している状況ですが、今後は単に導入数を増やすだけではなく対象者に合わせて対策用具を選択できるように適切な種類を増やしていこうと考えています。

具体的には、転倒・転落対策では対象者に意識されにくいセンサーとして「ベッドコール」、「超音波・赤外線コール」、離棟・離院対策ではデモ試用で好評だった「徘徊ナビ」などの導入を検討しています。導入種類が増えた場合はスタッフ全員を対象に活用方法の勉強会やセンサー選択フローチャートの活用が必要だと今から考えています。

5．メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

温度の変化で感知するセンサーや、スタッフには反応せずに対象者だけに反応するセンサーがあれば嬉しいです。

※超音波・赤外線コール　：　http://www.technosjapan.jp/product/sensor/2012/0317141942.html

※コールマット・スマート　：　http://www.technosjapan.jp/product/sensor/2017/0502150425.html

6．何か一言お願いいたします。

山川様・古谷様のポリシーや病院の PR などをお聞かせ下さい。

当院は、地域の皆さまと一緒に地域医療の推進を努めるため、信頼される医療サービスの提供に取り組んでいきます。病院長のリーダーシップのもと全職員がそれぞれの立場から、患者さまが安心して医療を受けることができ、また医療提供者が安全な医療を提供できる環境の整備とその向上に向け活動しています。

例えば、他病院の感染症専門医が毎月当院の感染対策委員会・ICT 委員会（院内の ICT 巡回も）に参加して頂くようなり、当院スタッフの感染に対する意識も向上してきました。

また、より実際に近い災害訓練を行うため、当院を中心に自治会・医師会・市役所・消防署・警察署と施設の合同の災害訓練を今年度はじめて行いました。患者さん役は、病院職員・施設職員に加え今回は自治会の方も参加して頂き、ムラージュ（災害医療訓練用ダミー）等と使用して訓練や勉強会を開催しました。

【災害訓練の様子】

当院の隣には小学校があり、市の指定避難所になっていることから、当院の対策本部と昭島市の災害対策本部（市役所の防災課職員と医師会長等）を病院内に設置し、連絡・指示体制の訓練を行いました。具体的には自治体の避難訓練等を行う傍ら、校舎の入口で市役所防災課職員と医師会の先生とでトリアージをして車椅子や施設のワゴン車で病院へ搬送する訓練や、直接病院に来る患者さんを想定して医師会の先生方でトリアージする訓練を病院で行いました。

今後の有事に備えて、具体的な地域防災に取り組み住民の安心に繋がるように、日常のなかでも昭島病院として地域に貢献できるように心掛けていきます。

テクノス通信　vol.104　（2018 年 3 月発行）より